



地図はこの辺りです

宮代町

沖野山

沖の山集会所

西方院

宮代台一丁目

和戸浅間神社

宮代和戸郵便局

国納集会所

国納

国納

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

和戸

れきし
歴史

vol.3

“和戸の昔と今をめぐる”コース

4 旧須賀村役場 (ぎゅうすかむらやくば)

明治22年(1889)4月、5つの村(須賀(すか)村、東条原村、西条原村、国納(こくのう)村、和戸(わど)村)が東条原村連合戸長役場を経て、須賀村は誕生しました。合併当初西条原の宝光寺に役場が置かれていましたが、明治40年(1907)に現在の和戸駅南側付近に移転し、さらに、大正3年(1914)に現在の和戸公民館の場所へと移転しました。和戸公民館は生涯学習の拠点として活用されています。



5 和戸教会 (わどきょうかい)

明治11年(1878)10月26日、県内で最初のキリスト教会として産声をあげました。明治5年(1872)、和戸村の小島九右衛門は横浜に向き、翌年には同村の大工小菅幸之助も横浜に出かけました。明治7年(1874)、小島は病にかかり医師ヘボン博士の診療を受けたのを契機として、同8年宣教師ゼームス・バラより洗礼を受け、小菅も翌年授洗し、その後、両名とも帰郷し小島の自邸に教会を設立しました。なお、医師ヘボン博士はヘボン式ローマ字で著名な人物です。明治15年(1882)、現在の和戸交差点付近に初代の教会堂を新設し、その後移転しました。初代和戸教会のステンドグラスは郷土資料館に展示されています。



6 御成街道 (おなりかいどう)

日光御成街道は、日光御成道(おなりみち)ともよばれ、徳川歴代将軍が、家康が祀られていた日光東照宮を参詣する専用道路としてつくられました。そのため、周辺の村々は、御成道を整備するため掃除や道普請の担当をしていたようです。西条原と国納(こくのう)の境には、掃除負担の境抗もありました。徳川第12代将軍家慶の日光参詣の際には、西条原鷲宮神社を休息所として使用しました。また、将軍が富士山を見るため、とまった左富士の名所も伝わっています。



7 西方院 (さいほういん)

西方院は新義真言宗智山派の寺で岩舟山と号します。平安時代の寛仁元年(1017)の創立と伝えられる古刹(こさつ)。寄木造りの十一面観音像は室町時代の作と推定され、高さ87.5cm、幅24cm、奥行13.5cm。一部に補修の跡が見られますが、全体に堂々とした古い様相を見せています。秘仏であり25年に一度御開帳されています。また、当寺には坐高17cmほどの小さな円空仏もあります。



8 宇宮神社 (うのみやじんじや)

中世和戸の一部は鷲宮神社の神領であり、古くは烏戸(うと)宮明神と呼ばれていました。正徳3年(1713)今の宇宮神社になったと伝えられています。烏戸宮の社名は、ウドが川岸の窪んだ所を示す言葉といわれ、古利根川がこの辺りの台地をえぐるように曲流していることから称されていたと思われます。明治の神仏分離までは、別当の本覚院(明治6年廃寺)は葛飾郡の本山派修験幸手不動院(春日部市小淵)の末寺で神社の東に隣接していました。



9 ぐるる宮代 (総合運動公園)



1日いても遊びきれない、スポーツレクリエーションの拠点。総合体育館・屋内プール・トレーニングルームの他、野球場などの屋外施設や夜間利用可能なテニスコートも完備しています。愛称の「ぐるる」は、泳ぐ、投げる、走ると総合体育館をイメージした3つの言葉から一文字をとってつけられました。月曜・祝日の翌日が休館日です。

10 胡録社 (ころくしゃ)

神社明細帳によると、祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)、小彦名命(すくなびこなのみこと)、韓神(しらかみ)を祀っています。

11 和戸橋河岸場跡 (わどばしかしばあと)

この和戸橋河岸場は幕末期には、江戸の河岸問屋である幸手粕壁問屋の津久井屋利右衛門(つくいやうえもん)の営業圏に含まれていました。和戸橋河岸から粕壁宿の上喜蔵河岸へ醤油や味噌などを配んだと伝わります。

0 国道4号 500m